

【技術分類】 2-1-17 種別栽培方法／腐生性菌／ヒトヨタケ科ヒトヨタケ属

【技術名称】 2-1-17-1 ササクレヒトヨタケ (*Coprinus comatus*)

【技術内容】

1 廃菌床利用の菌床栽培

エノキタケ、シイタケの廃菌床を培地として利用する。1.2kg 袋の培地を詰めた後、殺菌放冷後、種菌を接種する。培養温度は 10℃以上で 30~40 日間培養する。子実体発生のため、野外の土中に 55 袋/平方メートルを埋設し、覆土する。発生温度は 15~30℃で、発生処理後約 20 日後に子実体を収穫できる。3 回収穫でき、収穫量は 50kg/平方メートルである¹⁾。十分に堆肥化されたブナシメジ廃菌床 10kg、炭化もみ殻 1kg、米ぬか 350 g、ふすま 350 g を混合し、pH6~7.5、含水率 65%に調製後、1.2kg P.P.袋に詰め、滅菌放冷後、接種した。培養は温度 20℃で 30 日間行った。培養後、袋を培地表面から 3cm のところで切断し、炭化もみ殻を 10% (容量比) 混入した赤玉土で 1cm 覆土し、温度 22℃、湿度 90%の発生室で子実体発生させた。覆土 20 日後に収穫でき、収穫量は 250~260 g であった²⁾。

2 バーク堆肥利用の菌床栽培³⁾

針葉樹樹皮主体のバーク堆肥とふすまを 10:1 (重量比) で混合し、含水率 62%に調製後、P.P.袋に 1kg 詰め、滅菌放冷後、接種した。培養を 83 日間行った後、発生は野外で、菌床を土に埋設した。埋設の際、土とバーク堆肥を混合し、菌床の下に 4~5cm、菌床の上に 1~2cm 敷き詰め、さらに菌床の上にはクロマツ落葉を薄く覆土し、寒冷紗で覆った。菌床間隔を開けた方が収穫量は多かった。

3 おがこ利用の菌床栽培⁴⁾

スギおがこ：ふすま：乾燥おがこ = 180g : 130g : 130g に水を 700g 混合し、平底試験管に 80g 詰め、滅菌後、接種し、30 日間培養した。発生処理は、菌かき、注水後、含水率 62%のバーク堆肥を 30g 覆土し、温度 15~17℃、湿度 80~95%、照度 200LUX で行った。処理 40 日後に 16.8g 子実体を収穫した。

4 稲わら利用による菌床栽培⁵⁾

乾燥した稲わらを約 2cm に切断し、水に 4 時間浸水する。稲わら：米ぬか：炭酸カルシウム = 100g : 20g : 10g 混合し、瓶あるいは袋に詰める。滅菌後、接種し、培養を 40~50 日行う。発生処理は、菌かきを行わず、バーミキュライトあるいは小粒赤玉土を 1cm 覆土し、温度 22~23℃ (培養と同じ温度)、湿度 90~95%行う。マッシュルーム栽培用の堆肥でも子実体が発生する。

【図】

表 1 ササクレヒトヨタケ菌床の埋め込み方法別子実体発生収量状況

菌床の埋め込み時期	埋め込み土壌 (土壌:バーク堆肥)	埋め込み区画の幅	子実体の収穫時期※				培地 1 kg 当たり収量		個重 (g)
			7月 上~下	9月 中~下	10月 上~中	11月 中	個数	生重量 (g)	
5月21日	2:1	40cm	71%	11%	18%	%	22	394	18.1
	2:1	80	53	23	24		64	900	14.0
	1:1	40	39		61		9	160	17.3
	1:1	80	34	11	54		16	280	17.2
7月30日	2:1	40		52	48		4	99	22.5
	2:1	80		68	32		11	251	23.2
	1:1	40			95	5	20	388	19.6
	1:1	80		60	40		24	555	22.7

※子実体の生重量の割合

出典:「ササクレヒトヨタケの野外栽培について」、中部森林研究 45 巻、1997 年 1 月、武藤治彦、

原敏明、袴田哲司著、日本林学会中部支部発行、78頁 表-2. ササクレヒトヨタケ菌床の埋め込み方法別子実体収穫状況

【出典／参考資料】

- 1) 「廃培地を有効利用ーササクレヒトヨタケ栽培」、きのこ特産情報、1991年9月15日、編集部著、株式会社農村文化社発行、19頁
- 2) 「ササクレヒトヨタケの栽培方法」、特願平 05-207137、1993年7月28日、出願人井上清光、特許庁発行、1-6頁
- 3) 「ササクレヒトヨタケの野外栽培について」、中部森林研究 45巻、1997年1月、武藤治彦、原敏明、袴田哲司著、日本林学会中部支部発行、77-78頁
- 4) 「ササクレヒトヨタケの栽培方法」、特願平 09-338293、1997年11月25日、出願人麒麟麦酒株式会社、特許庁発行、1-5頁
- 5) 「ササクレヒトヨタケ」、図解よくわかるきのこ栽培、2004年4月1日、財団法人日本きのこセンター編、社団法人家の光協会発行、215-219頁